

経営科学 第8巻（1964年）総目次

〔展 望〕	号	頁
朝尾 正 アメリカ企業体におけるORの現状について	4	209
野田 信夫 企業の総合計画とビヘービア	2	83
日比野勇夫 現代経営学に於ける科学化の動向	3	147
藤森 謙一 日米共催OR学会（於ハワイ）に出席して	4	247
日崎 憲司 経済成長下における工業立地の諸問題	3	131
矢部 真 国際OR学会連合会第3回大会に出席して	2	105
米沢 滋 電気通信事業の将来	1	3
〔総合報告〕		
近藤次郎, 松崎功保 予測理論の発展	1	27
関谷 章 Bayesian Decision について	4	185
〔論文〕		
石合光雄, 新木元治, 荒井竜三 列車遅延と列車保安制御装置	4	234
大前 義次 未稼動貯蔵品の経済的整理基準について	2	93
佐伯 弘子 Line Balancing の Computer 化	2	93
竹内 啓 Convex Programming についてのノート	3	155
多田 和夫 探索努力の配分に関する考察（II）	4	218
中島 裕之 Brown の指数平滑法を応用した常備品在庫管理の機械化	4	225
山川 典宏 抜取検査の最適化に対する一考察	1	16
〔通信〕		
	アメリカのOR（座談会）	3 163
書籍調査	オペレーションズ・リサーチ	4 255
近藤 次郎	ORワーカーの給料調査（カナダ）	4 253
〔記事〕		
会長挨拶	安川第五郎	1 1
	フェローの紹介（弥永昌吉氏, 小野木次郎氏, 河田竜夫氏, 後藤正夫氏）	2 124
	1964年度総会記事	1 72
〔書評〕		
	Markowity, H.M.: Efficient diversification of investments（野村証券調査部）	2 128

〔文献抄録〕

	号	頁
1. AGIFORS 特集		
Dequesony, H. : Simulation of a Caravelle Fleet operation; AGIFORS, 1, 1961.	2	182
Knowler, A.E. : The use of the Erlang loss formula for the calculation of the required number of operational stand; AGIFORS, 4, 1964.	3	182
Evers, G.H.E. : Saleable seats; A stochastic story; AGIFORS, 4, 1964.	3	182
Dulac, D. : Model for calculating freight loads offered; AGIFORS, 4, 1964.	3	183
Gaspard, D. B. : Forecasting the punctuality of a route with intermediate stops; AGIFORS, 4, 1964.	3	183
Kolner, T. K., UAL : A logistics concept of rotatable spare parts production & inventory; AGIFORS 1961.	4	262
Standiford, J. D., TCA : A theory of optimum allotment including cost of stockout; AGIFORS, 1961.	4	262
Napoli, Joseph C., UAL : Determining station stockout rates for rotatable spare parts in an airline system; AGIFORS, 1961.	4	262
Stahel, H., SW : Monte Carlo simulation on engine failures; AGIFORS, 1961.	4	261
Jeannot, J. P., TCA : Aircraft engine life cycle simulation; AGIFORS, 1961.	4	263
2. Dynamic Programming 関係		
Kauffmann, A. et R. Cruon : Etude de la sensibilite en programmation dynamique : Politiques k-optimales en avenir certain; Revue Française de recherche opér., 8, 1964.	4	260
3. Linear Programming 関係		
Dantzig, G.B. & Johnson, D. L. : Maximum payloads per unit time delivered through an air network; Opns. Res., 12, 1961.	1	80
Giglio, R. T. & Wagner, H.M. : Approximate solutions to the three machine scheduling problem; Opns. Res., 12, 1964.	1	81
Gomory, R.E. & T.C. Hu ; Synthesis of a communication network; J. Soc. Indust. Appl. Math., 12, 1964.	4	261
4. Marketing 関係		
Russel, L.A. : Some observations on marketing and operation research in the United State; 第3回国際OR学会提出論文。	2	128
Solt, R. : An assessment of long term investment; 第3回国際OR学会提出論文。	2	129
5. Queueing 関係		
Takács, L. : The limiting distribution of the virtual waiting time and the queue size for a single-server queue with recurrent input and general service times; Sankhya, 25, 1963.	2	126
Kendall, D.G. : Some recent work and further problems in the theory of queus; Теоря Вероятностей и ее Применения, 9, 1964.	2	126
6. 統計理論関係		
Lincoln, T.L. & Weiss, G.H. : A statistical evaluation of recurrent medical examinations; Opns. Res., 12, 1964.	1	80
7. その他		
Bernholtz, B. : A new derivation of the Kuhn-Tucker conditions; Opns. Res., 12, 1964.	1	81

Cooper, L. : Heuristic methods for location-allocation problems; <i>SIAM Review</i> , 6, 1964,	1	79
Timperi, G. : Una rappresentazione matricale delle reti di telecomunicazioni; Note Recensioni Notizie, 13, 1964.	4	259
Wester, L. & Kilbridge, M. : The assembly line model-mix sequencing problem; 第3回国際OR学会提出論文。 以上	2	127

お 願 い

経営科学第8巻3号に下記のような誤植がありましたので御手数ですがお切り取りの上貼付御訂正を願います。

下記を 171 頁左側上段へ

倉庫の配置とか容量もシミュレーションのなかに組みこんである。それから飛行機の出発するまでのこまかい整備段階までシミュレーションとしてあるのです。もう一つはシミュレーションとデシジョン・セオリーの結合の傾向が最近非常に出てきているのではないかと思います。

木下 リスク・シミュレーションです。

矢矧 今まではいわゆるシミュレーションするだけ

下記を 176 頁左側上段へ

イが少ないということがいえます。中部のほうは、質も量も東部、西部と格段の差が出てしまっているということが一般的印象です。

村中 それにつきましてスタンフォード大学のワグナー先生といろいろお話したのですが、西部は今から発達していく地域なのということ。たとえば石油工業とか、機械でも精密機械工業とか今からだんだん大きくなっていく、だんだん、地域開発をしていく。

従って産学共同関係ということで、スタンフォード大学は現在でも政府関係、あるいは軍関係の仕事の委託が一番多くなっているということでございます。それからロスアンゼルスは、毎月大体2万近く人口がふえていることでして、産業がだんだん発展していくシンボルではないかと思いますね。

司会 ORのメンバーの分布からいうと数としては東部が圧倒的に多いでしょうね。

国沢 そうでしょうね。しかしORに限らず、向うの3軍のリサーチというのは、政府の資金が大きいですからね。

下記を 170 頁左側上段へ

んというノルマがあるそうです。あれは非常にいいと思いました。こういうことを各企業の上に立つ方が指導して下さると、あまり卑下しないでORをどんだん発表するということになれば、わが学会もいろいろセクションが分かれて始まるかもしれないと思うのです。

司会 国沢先生、向うの学会と日本の学会との質的なレベルというのはいかがですか。

下記を 175 頁左側上段へ

本でどうしてああいうものが育たないかということになってしまうのですが、どうなのですか。私自体それが疑問なのです。

MITのインダストリアル・ダイナミックスのフォレスター教授の下にいるロバートという助教授に会ったら、その人が社長でそこだけのコンサルタント会社を作ってやっているというので、そういう非常にこまかいところまで専門のコンサルティング会社があるのかと、大へんびっくりしました。これは日本ではちょっと考えもつかないことだと思います。

司会 マーケットが広いので、守備範囲が非常に強いのですね。コンピューター・アプリケーションでも、自分の得意なところの業種をバツと限ってしまうとか——それで成り立つのでしょうか。日本ではそれが無いから、何にでも手を出して専門家は深くないということでしょう。

矢矧 大学の方がいらっしゃるところで申し上げるのはちょっと悪いのですが、日本の大学というのは上に行くに従って、大学院まで含めて、教育が比較的充実していない——という言葉が悪いのですが